

【唐津市】
校務D X計画

校務D Xの方向性は、「G I G Aスクール構想の下での校務D Xについて（令和5年3月8日 文部科学省）」において、【働き方改革に関する観点】、【データ連携に関する観点】、【大規模災害におけるレジリエンスに関する観点】に関連する事柄について取り組む必要があると示されている。

それらを実現するためには、G I G A端末やネットワーク環境を活用するほか、校務系・学習系のネットワークの統合、校務支援システムのクラウド化、データ連携基盤（ダッシュボード）の創出やこれらを安全安心な形で実装するためのセキュリティの確保が必要とされている。

本市においても、これらを踏まえ、教育の情報化を推進していく必要がある。

1 現状の分析

本市の「G I G Aスクール構想の下での校務D Xチェックリスト」による令和6年度時点での結果（半分以上がデジタル化）は以下のとおりである。いずれもさらなるデジタル化に取り組む必要がある。

市区町村名		唐津市	佐賀県	全国
教員と保護者間 連絡のデジタル化	欠席・遅刻・早退連絡	71%	60%	76%
	お便りの配信	21%	33%	49%
	調査・アンケートの実施	33%	33%	61%
学校内 連絡のデジタル化	校内での資料共有	64%	60%	76%
	校内での情報共有	67%	60%	77%
	調査・アンケートの実施	43%	53%	67%
教員と児童生徒間 連絡等のデジタル化	各種連絡事項の配信	10%	27%	28%
	調査・アンケートの実施	40%	33%	54%
その他	F A Xの原則廃止	26%	27%	23%
	押印の原則廃止	10%	13%	7%

デジタル庁ホームページ（令和6年12月26日時点公開）より

（1）教員と保護者間の連絡のデジタル化

学校徴収金のうち学校給食費については、公会計化実施にあわせ、令和6年度から給食費管理システムの運用を開始した。

学校と保護者間の以前から導入している連絡アプリについては、利用方法の周知徹底などさらなるデジタル化を進めていく。

(2) 学校内の連絡のデジタル化

教職員間における職員会議等の資料共有や情報共有は、Microsoft Teams などのクラウドサービスの活用が進んできている。しかし、教職員に紙で提出を求める書類が多くあり、それらをデジタル化していくことが今後の課題である。

(3) 教員と児童生徒間の連絡等のデジタル化

児童生徒の1人1台端末の持ち帰りについては、1人1台運用開始時より実施している。デジタルドリル教材を用いた宿題など、家庭での活用も行っているが、さらに推進していく必要がある。

(4) その他

業者へのFAXの使用や、保護者や外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類が多々あるため、今後、関係機関や学校とやりとりのある事業者等と協力し見直していく必要がある。校務システムへの不要な手入力作業の一掃については、現状では学習系データと校務系データの連携が行えない状況であるため、事務処理に時間を要するなどの課題がある。

2 今後について

(1) ネットワーク基盤

本市のネットワークは、従来のネットワーク分離の考え方に基づいて構築されているが、【校務系と学習系のネットワーク統合】、【校務システムのクラウド化】といった国が示す方向性を踏まえ、再構築に取り組んでいく。

(2) データの利活用

【データ連携基盤（ダッシュボード）の創出】といった国が示す方向性を踏まえ、授業支援ソフトやデジタルドリルで生成された学習系データ、児童生徒の出欠及び成績情報等の校務系データなど、教育データを収集・分析・可視化するインターフェース（教育ダッシュボード）の構築に取り組んでいく。

(3) FAX及び押印の見直し

緊急連絡やネットワークの不具合時、FAXの方が電子メール等より効率的な場合などを除き、FAX及び押印の原則廃止に向けて、関係機関や学校とやりとりのある事業者に対して、慣行の見直しを依頼するなど継続的に働きかけを行う。